

INFORMATION

植木・花木類の 病害虫防除について

平成十五年三月十日に、新たな改正農薬取締法が施行されました。同法では農作物（樹木及び農林産物含む）に対してと定義し、病害虫防除や成長促進剤・発芽抑制剤などの使用は、野菜はもちろん花植木や鉢物・切り花も該当します。使用方法の遵守は基より、罰則も強化されましたので、充分に注意をしてください。ここ数年JAふかや管内で発生事例の多い病害虫について、お知らせします。

(一) アブラムシ類

年間をつうじて発生しますが、特に春先（四～五月）の新梢への被害が多く見られます。新梢に被害を受けると、葉が縦に巻き込むため、薬剤散布の効果が悪くなります。植え付け時の薬剤処理や発生初期の薬剤散布が効果的です。

(二) カイガラムシ類

年間をつうじて三世代ほど発生します。う化直後は薬剤に弱いため、この時期に集中して防除を行います。幼虫は成育にともない口

ウ物質で覆われるため、次第に薬剤が効きにくくなります。

落葉性果樹では、冬季にマシン油乳剤の散布を行い、越冬病害虫の密度を軽減させます。

(三) ハダニ類

乾燥条件での発生が多く、抵抗性が強いいため、同一薬剤の連用は避けてください。

落葉性庭木に対しては、冬季にマシン油乳剤の散布を行い、春先の成虫密度を下げるようにしてください。

害虫防除一覧表

	農作物	薬剤名	希釈倍率	回数
アブラムシ類	樹木類(木本植物)	スミチオン乳剤	1000倍	6回以内
	花木(苗木)	ダイソントン粒剤	1本当たり2～10g	挿入付け時
	花卉類(草本植物) 観葉植物	マラソン乳剤	2000～3000倍	6回以内
		オルトラン水和剤 アドマイヤーフロアブル オルトラン粒剤	1000～1500倍 2000倍 3～6g/10a	5回以内 6回以内 5回以内
カイガラムシ類	樹木類(木本植物)	スプラサイド乳剤40 ※1	1000～1500倍	5回以内
	落葉果樹	マシン油乳剤95 ※2		
※1花卉・花木類では開花期における花卉、生育期における葉への被害の可能性があるため、あらかじめ安全を確かめてから使用する。 ※2ナンシリンゴ・カキ・モモは、16～24倍その他落葉樹は12～14倍				
ハダニ類	樹木類(木本植物)	パロックフロアブル	2000倍	1回まで
	花木(苗木)	ダイソントン粒剤	1本当たり2～10g	挿入付け時
	花卉類(草本植物) 観葉植物	ケルセン乳剤 ピラニカEW ※3	1500～2000倍 2000倍 ※3ケ・カーネーションは1000～2000倍	2回以内 1回まで
カミキリ	幹から木くずが出ていたら、木くずを振り出し針金で幼虫を捕殺します。			

病害防除一覧表

	農作物	薬剤名	希釈倍率	回数
赤星病	ナンシリンゴ	トリフミン水和剤	2000～3000倍	3回以内
		バイレイトン水和剤	500～1000倍	5回以内
さくら病	ポケ	マネージ乳剤	1000倍	6回以内
		トリフミン水和剤	3000倍	5回以内
すす病	樹木類(木本植物)	トリフミン水和剤	500倍	8回以内
	花卉類(草本植物) 観葉植物	トリフミン水和剤 ガブグリーン	500倍 800倍	8回以内 8回以内
カミキリ	カイガラムシ・アブラムシなどの分泌物に発生するので、これらの害虫を防除します。また通風不良・樹幹下・湿度の高いところで発生が見られるため、生育環境にも配慮してください。			
根腐病	土壌消毒を行い、無病苗を植えましょう。苗は場に発生した場合は早めに抜き取ります。軽度の場合は患部を取り除きます。また、切口の保護のために、石灰乳(生石灰2kgを水10ℓに溶かしたもの)を塗ります。			
根腐病	発病地の植え付けは避け、無病苗を選択します。未熟堆肥などの施用を避け、土壌消毒を行います。			

(四) 赤星病

三月中旬～四月下旬にヒメリンゴ・ナシ・ポケ・カリンなどで発生が多く見られます。ビヤクシン類との混植は避けてください。

※「花卉(草本植物)・観葉植物」「樹木(木本植物)」といったグループで、登録のある薬剤を記載していますが、品目・種類によっては薬害の危険性があるため、あらかじめ安全を確かめてから散布してください。

※カキ・ナシ・カンキツ類等の果樹鉢物への農薬使用について。果樹に登録のある薬剤を準用して使用できます。ただし、果樹園の成木で薬害が出なかった場合でも、鉢物類では薬害の出る恐れがあります。散布に当たっては、安全性を確かめてから散布してください。